



# AUE News



2013年2月1日

第 55 号

編集・発行

愛知教育大学広報チーム

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500

## 目次

- 行事予定(2月1日-15日)
- トピックス
  - ・ 企業研究セミナー
  - ・ 教職員メンタルヘルス研修
  - ・ 大学入試センター試験
  - ・ 劇団把<sup>o</sup> 夢(ばむ)が新春公演
  - ・ 愛知県ユネスコスクール・ESD 交流会
  - ・ エコキャンパスプロジェクト特別講演会
  - ・ ユネスコスクール全国大会持続発展教育(ESD) 研究大会に本学から参加
  - ・ 「しょくまるカレー」生協食堂メニューに登場
  - ・ 第42回ふよう美術展
  - ・ 佐々木雅浩准教授のガラス作品展
  - ・ 学生サイバーパトロールボランティア委嘱状交付式
  - ・ 造形文化コースの学内卒業制作展
  - ・ 第5回アカデミックカフェ
- お知らせ・報告・投稿
  - ・ ブラジル・サンパウロ大学と国際交流協定締結
  - ・ ブラジル愛知県人会のサポートに感謝
  - ・ 催しもの案内

## 行事予定(2/1-15)

- 5日(火) 役員会部局長会議(10:00～ 学長室)
- 6日(水) 教務企画委員会(13:30～ 第三会議室)  
学生支援委員会(13:30～ 第五会議室)  
大学改革推進委員会(15:30～ 第五会議室)
- 7日(木) 教育実地研究専門委員会(15:00～ 第五会議室)
- 12日(火) 役員会(13:00～ 学長室)  
代議員会(16:40～ 第五会議室)
- 13日(水) 教育創造開発機構委員会(9:30～ 大学会館中会議室)  
代議員会(13:30～ 第五会議室)  
教育研究評議会(代議員会終了後、第五会議室)

## トピックス

### 企業研究セミナー(1/16,17)



企業への就職を希望する学部3年生と大学院1年生を主な対象にした「企業研究セミナー」が、1月16日(水)、17日(木)の午後1時～午後5時、大学会館2階大集会室で開催されました。

同セミナーは、学生が企業の採用担当者から直接話を聞くことができる就職支援の催しで、2001年度から毎年開催し、今回が12回目。

2日間合計で約260人の学生が来場し、地元有力・優良企業計82社の参加企業の採用担当者から、説明を受けました。

就職環境の厳しさを反映してか、リクルート・スーツ姿の学生たちは、開場と同時に希望する企業のブースを訪れ、担当者からの企業概要や業務内容の説明に熱心に耳を傾け、中には真剣な表情でメモを取る学生の姿も見られました。両日とも、セミナー終了時刻になっても多くの学生が説明を受けていました。

学生の希望等を基に参加企業を開拓し、今回も、新たに大手損保、金融等の有力企業の参加を得ることができ、学生の質問などに答えていただけました。キャリア支援課の担当者としては、1人でも多くの学生が、このセミナーでの出会いを内定につなげてほしい、と願っています。

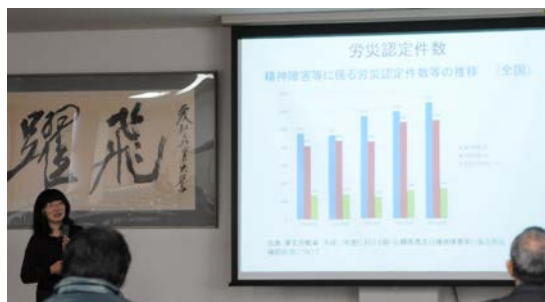
(キャリア支援課 課長 三浦孝史)

### 教職員メンタルヘルス研修(1/16)

本学安全衛生委員会主催の「教職員メンタルヘルス研修」が1月16日(水)、教授会開会前の午後零時45分～午後1時30分に、第一会議室で行われました。

同研修は、同委員会の労働安全衛生に関するアクションプランに基づき、職場メンタルヘルス教育の向上を目的に、本学の産業医である保健環境センター田中生雅教授を講師として実施され、教職員40人余りが参加しました。

田中教授は「教職員のメンタルヘルス」と題して、労災認定件数や日本の労働環境などのメンタルヘルス周辺の話題をはじめ、各種データによる労働者のストレス状況及び職域周辺の抑うつ状態における症状から回復・予防等などについて、パワーポイントで大変分かりやすく説明しました。講義終了前には、簡単にできるストレス発散運動も紹介され、参加者は田中教授の指導の下に、腕や首を動かすと運動前より身体が柔軟になり、ストレス解消にはちょっとした休憩も大事であることを実感していました。



(人事労務課 福祉担当係長 原田一三)

### 大学入試センター試験(1/19,20)

2013年度大学入試センター試験が、1月19日(土)、20日(日)、本学第一共通棟、附属高校などを会場に実施されました。



両日とも、教職員と一部大学院生が試験監督、交通整理などの業務に当たり、試験前には試験本部の第一会議室で松田正久学長が「教員、職員が協力しながらミスのないよう、緊張感を持って業務を行っていただきたい」とあいさつ、林光春入試課長が細かな注意点を確認し、万全の態勢で臨みました。

受験生たちは午前7時ごろから続々と来場して、応援に駆け付けた高校の先生たちの激励を受けながらも、緊張した面持ちでそれぞれの試験会場に向かいました。

今年のセンター試験受験者は全国で57万3,344人(前年比1万7807人増)、本学では3,010人(同10人増)が受験しました。

### 劇団把°夢(ぱむ)が新春公演(1/19,20)

本学の演劇部「劇団把°夢」による新春公演が、1月19日(土)、20日(日)、名古屋市中区大須の七ツ寺共同スタジオで開催されました。

同劇団の通算103回目の公演。演目は「カメコが笑った日」(作・石山英憲)。仁井貴文さん(技術専攻2年)が演出を手掛け、1年～3年の10人が出演。物語は、平成のトキワ荘と呼ばれる「トキタ荘」の住人たちが夢に向かって努力する毎日を過ごしているある日、一人の女性が

住人に加わって、新たな展開に。それぞれの思い出が絡み合っ、ちょっと切なく、ちょっと笑える青春ドラマに仕上がりました。

両日合わせて計 4 回の公演が行われ、学生や劇団 OB が多数訪れて、熱演のステージを観賞しました。



### 愛知県ユネスコスクール・ESD 交流会 (1/23)

本学と文部科学省主催、愛知県教育委員会及び名古屋市教育委員会後援の「平成 24 年度愛知県ユネスコスクール・ESD 交流会（日本/ユネスコパートナーシップ事業）が 1 月 22 日（火）に名古屋商工会議所で開催されました。対象者は県内の国公立小・中・高校及び特別支援学校の関係者で、63 校 81 人が参加しました。

この交流会は、文部科学省が推進する持続発展教育（ESD）の推進拠点として位置づけられているユネスコスクールに加盟した後、どのように教育を進めていくかという基本的な問いに答えるために企画したものです。

本学では、昨年 8 月の 2 日間、尾張地区及び三河地区において、ユネスコスクール加盟支援の一環として、ユネスコスクール研修会を実施しました。ユネスコスクールとして特色ある小・中学校を招いて、事例発表をしていただき、モデルケースとして紹介しました。今回は、発表の第 2 弾として、県内の小・中・高校の各学校での取り組みの実践発表を行っていただきました。



松田正久学長が「本学の大学憲章と ESD の趣旨が合致しており、2014 年の ESD 最終年合会に向けて、県内の学校のユネスコスクール加盟支援について本学も協力していきたい」とあいさつ。その後、宮川秀俊国際交流センター長から、県内のユネスコスクールの現状と交流会の趣旨等の説明がありました。



引き続き、国立教育政策研究所教育課程センター基礎研究部、総括研究官・後藤頭一氏から、「ESD の理念とユネスコスクール・ネットワークの意義について」と題した講演があり、終了後の質疑応答では、各参加者から具体的な取り組み内容に係る質問が多く出され、関心の高さがうかがわれました。

休憩後、ユネスコスクール加盟申請中の学校の実践報告が、一宮市立浅井北小学校教頭 西部智一先生、名古屋市立菊井中学校校務主任 神

賀 優先生、愛知県立刈谷北高等学校教諭 伊藤卓紀先生よりなされました。続いて、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）事業部次長の柴尾智子氏をコーディネーターとして、実践報告の 3 人の先生方を交えて、意見交換会及び情報交換会を行い、各学校の取り組みを聞いての感想や意見の拝聴、参加者からの質疑応答を行い活発な交流会となりました。（国際交流センター 稲吉隆）



### エコキャンパスプロジェクト特別講演会 (1/23)

愛知教育大学エコキャンパスづくりプロジェクトの本年度第 2 回特別講演が、1 月 23 日（水）午後 1 時 30 分から第二共通棟 421 講義室で開催されました。

プログラムの第 1 部は、京都大学環境科学センター長の酒井伸一先生による講演「大学低炭素化への道～環境報告書ベンチマーキング研究からの展望～」、第 2 部は、本学保健環境センター長の三宅明先生による講演「愛教大エコプロジェクトの紹介」で、参加者は 106 人と大盛会でし

た。

松田正久学長のあいさつの後、酒井氏は各大学が自己評価した環境報告書の情報を基に、それぞれの取り組みを分析して、世界規模で大学間比較を行った結果、本学の環境への取り組みや成果が世界レベルであると、お話をいただきました。一人当たりの二酸化炭素排出量では、環境配慮の進んだイギリスと比べても良い評価であるとのことでした。また、環境配慮型の施設整備をしても、研究に伴い施設そのものが増えていることや、院



生数が増加していることなども指摘され、評価の難しさも学ぶことができました。三宅氏からは本プロジェクトが分かりやすく紹介され、学生への環境活動参加の呼びかけともなりました。質疑では大学間比較の意義や京大での取り組み等について熱心な質問がありました。（保健環境センター 研究員 中村美紀）

### ユネスコスクール全国大会 持続発展教育（ESD）研究大会に本学から参加（1/26）

文部科学省、日本ユネスコ国内委員会が主催し、国立大学法人奈良教育大学、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター等が共催の第4回ユネスコスクール全国大会「持続発展教育（ESD）研究大会—ESDの実践上の課題解決に向けて」が1月26日（土）に奈良教育大学で開催されました。

これは、ESDを推進するユネスコスクールの取り組み事例等を報告し、ESDの課題解決に向けて、教育活動のあり方や進め方、授業方法や教材の開発、活動の継続性などの課題を議論するもので、約500人が参加しました。

開会式では下村博文文科大臣のあいさつ文を、文科省国際統括官加藤重治氏が代読し、2014年秋の日本とユネスコの共催で名古屋市、岡山市において「ESDに関するユネスコ世界会議」が開催されることを紹介、日本ユネスコ国内委員会の金澤一郎副会長及び開催校として奈良教育大学の長友恒人学長のあいさつがありました。その後、宮城教育大学を基幹大学とする「Rice（おこめ）プロジェクト」による「グローバル社会に通用する人材をESDでどのように育てるか」をテーマにシンポジウムがありました。

午後からは、9つのテーマ別に分科会が開催され、本学は、第1分科会「地域・博物館・NPO等との連携」に濱田泰栄総務課長及び稲吉、第2分科会「大学との連携を通じた質の向上」に松田正久学長、第5分科会「教科・学習指導要領とのリンク」に萩原孝准教授らが参加し意見交換を行いました。その後、全体報告会及びESD授賞式が行われ、高校の部で豊田東高校が優秀賞を受賞しました。また、第5回は東京多摩市で開催されるとの報告がありました。

（国際交流センター 稲吉隆）

### 「しょくまるカレー」が生協食堂メニューに登場（1/28-2/1）

本学で生まれた食育キャラクター「しょくまるファイブ」をヒントに作られた「しょくまるカレー」が生協食堂のメニューとして1月28日（月）～2月1日（金）に提供されました。



「しょくまるファイブ」は、2006年に家政教育の西村研究室で“誕生”。健康な体のために主食、主菜、副菜、果物、牛乳・乳製品のバランスのよい食事をとろうと、絵本や劇でアピールして、地元の子どもたちにも人気のキャラクターに“成長”。昨年秋に刈谷市が食育の一貫として「最強のしょくまるカレー」コンテストを開催すると、小学5、6年生から672件のレシピが寄せられ、グランプリが選ばれました。その上位レシピをバージョンアップして、生協食堂にお目見えしたのが今回のカレー。ナスとピ

ーマンの素揚げ，トマト缶，地元特産の切り干し大根などを使ったドライカレーで，大根のシャキシャキした歯ごたえと，野菜と肉の旨みが凝縮されているのが特徴。価格はMサイズで300円。5日間に620食が販売され，好評を得ました。

今回は試作販売とあって，アンケートも実施。学生や教職員から231通の回答があり，意見・提案はレトルトカレーの具体化など，今後の「しょくまるファイブ」による食育活動の展開に役立てられる予定です。



## 第42回ふよう美術展 (1/30-2/3)

附属特別支援学校の子どもの作品を展示した「ふよう美術展」が，1月30日（水）から岡崎市美術館で開催されました。2月3日（日）まで。

小学部のテーマは「すいすいおよくよ うみのなかまたち」で，トレイなどの固い材質と色紙・ビニールなどの柔らかい材質を組み合わせる海の中を表現。もう一つのテーマ「みんなみてみて はいポーズ」では，模造紙に自分の身体の原寸を写し，形の面白さを味わいました。中学部のテーマ「がらがらへび」では，自由に曲がる材料を組み合わせる蛇の形を作り，さらに「秋の公園で」のテーマで，動きを捉えたリズム感のある線と季節感あふれる色彩の絵で秋の情景を描きました。高等部は「重ねて作ろう ぼく・わたしの水族館」をテーマに，背景の上に魚や海草など海



の生物を描いた2枚のプラスチック板を重ね，幻想的な世界を表現しました。



全員が，感じたことを素直に表し，個性があふれる表現をした作品に，訪れた方々も見入っていました。子どもたちも，授業の一環として見学に訪れ，芳名録に署名し，美術館で立派に展示されている自分の作品を見つけて喜んでいました。

(附属特別支援学校長 小川正光)

## 佐々木雅浩准教授のガラス作品展 (1/30-2/5)

本学美術教育講座の佐々木雅浩准教授のガラス工芸作品を紹介する「新しいガラスのかたち展」が，名古屋市市中村区のジェイアール高島屋の美術画廊で1月30日（水）から始まり，2月5日（火）まで。



今回は，埼玉県在住の神田正之さんとの2人展。キルンワークと呼ばれるガラス工芸の技法で色彩豊かな作品を制作している神田さんと，宙吹きによる造形表現の可能性を追求している佐々木准教授の“共演”により，ガラス工芸の多様な世界を楽しむことができます。佐々木准教授は同展に向けて，昨年夏から作品を制作した約60点を出品。ガラスという物質に自ら関わることによって作品が変わることを表現した「臨界」，白金をガラスに焼き付けて艶めかしい表情を引き出した「白金彩器」，水滴が水面にはじける瞬間を表したような「ウォータークラウン」などのシリーズで，ガラスの可能性に迫ったダイナミックな作風が来場者を魅了して

います。

佐々木准教授は1993年に本学の総合造形コースを卒業，1999年世界工芸コンペティション・金

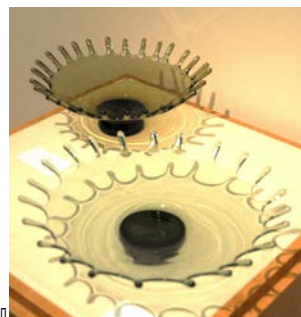
沢で優秀賞受賞，2009年第4回KOGANEZAKI・器の形・現代ガラス展 黄金崎グランプリ受賞，2010年国際ガラス展・金沢2010 奨励賞受賞など，数々の受賞歴のある気鋭の作家としても活躍。

「ガラスという素材が作り出す形が面白い。ガラスの状態に応じて，瞬間的にどう（作り手が）動くかが，難しくもあり，醍醐味。ギリギリのところ，挑戦する緊張感，ゲーム感覚があり，上手くいくと達成感があり，刺激的です」とガラスの魅力を語る佐々木准教授。



初日には，折出健二理事も作品を鑑賞して，熱心に制作過程を聞いた後，「佐々木氏が『ガラスがどうなりたいたのか』と，素材と対話し制作する姿が興味深かった。『臨界』

のタイトルも，制作者の思いとガラスの変容・生成とが接するギリギリの位相をいうのだと知って，奥の深さが分かった」と感想を話していました。



### サイバーボランティア委嘱状交付式 (1/30)

ネット上の犯罪から子どもたちを守るために組織された「サイバーボランティア」に参加する本学学生への委嘱状交付式が，1月30日（水）午後1時30分から，本部棟第四会議室で行われました。



ボランティアとして活動する大学院2年と学部2年生の2人に，愛知県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課，杉原好則課長補佐から委嘱状を交付されました。この後，引き続き，県警の情報セキュリティアドバイザーによる，ネット上で有害サイトを発見・通報する「サイバーパトロール」のための知識や検索方法，見つけた場合の対応，検索時の注意事項についての講習が行われました。サイバーボランティアの活動は，サイバーパトロールのほかに，チラシの配布等の広報活動や，小・中学校などで児童・生徒に講話するサイバー防止講話もあり，現在，愛知県内の大学生74人が，ボランティア登録しています。交付式と講習を終えた学生の1人は，

「学生のうちに，いろいろボランティアを体験しておきたいと応募。大学で学んだことが役立てば」と語っていました。

県警担当者から「愛教大は将来，教員になられる学生さんが多いですので，経験や知識を子どもたちに伝えていただければと思います」との言葉がありました。県警では今後も随時ボランティアを募集します。

(学生支援課 課外教育担当係 亀山重人)

### 造形文化コースの学内卒業制作展 (1/31-2/4)

造形文化コースの卒業制作展が1月31日（木）～2月4日（月），大学会館2階で開催中。

陶芸，染織，金工，ガラス，プロダクトデザインの作品，美術史の研究論文など，35人の卒業制作作品が並べられ，学生たちの集大成を一堂に紹介しています。

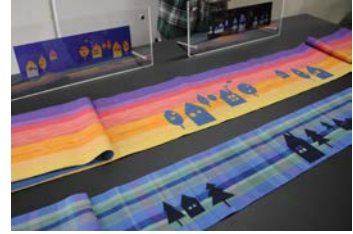
1日（金）は，出品した全学生と教員が集まり，一人ひとり，自分の作品のコンセプトを説明し，質疑応答や講評





が終日、行われました。

金工で胸飾りを作成した学生は、自ら身に付けて、作品を披露。ガラスを研磨して模様を生み出す切り子の手法で制作した学生は、置き方や照明の当て方によるガラスの表情



の変化なども紹介、染織の学生は織った布で多彩なラッピングの仕方も提案するなど、作品の魅力を伝えようと工夫を重ねていました。

これらの作品は、2月20日（水）～24日（日）に刈谷市美術館で開催される「卒業・終了展 2012」で、美術選修・専攻の学生たちの卒業制作作品と共に再び、展示されます。



### 第5回アカデミックカフェ(1/31)

本学教員らの研究成果などを広く市民にも知ってもらおうと企画された「アカデミックカフェ」が1月31日（木）午後5時半から、第5会議室で開催されました。今回が5回目で、星博幸准教授（理科教育）が「海底ほりほり・深海掘削で地球の営みを探る—国際科学プロジェクトが明らかにしたホットスポットの新しい描像—」をテーマに講演しました。星氏ら国際チームによる調査研究の結果は2012年ネイチャー・ジオサイエンス誌に掲載され、話題を呼びました。市民、学生、職員ら約60人が参加し、地球内部の神秘にまつわる話を午後7時過ぎまで、興味深く聴き入りました。



ほぼ満席となった会場で参加者は用意されたコーヒーなどを楽しみ、松田正久学長が「大学の幅広い研究を市民、地域に発信する企画。リラックスして新しい地球像を見て、星先生が答えられないようなものも含めていろいろ質問してください」とあいさつし、講師紹介の後、講演に移りました。

プロジェクトはニュージーランド沖の海上で、掘削船に乗り込み、ルイビル海山列の水深1500mにある海山を最深約500m掘削して、採取した岩石などを約2カ月間にわたって調査。星氏は古地磁気研究者として参加し、研究者約30人、調理、その他を担当するクルー数十人の総勢約100人による閉鎖空間での集団生活。研究者は2交代制で、星氏は午前零時から正午までの勤務体制で、研究、ディスカッションに没頭。動画を含めて海上船調査の様子を紹介しました。ホットスポットは地球の深部から上昇して、地表で火山活動を続けている場所のことで、ここを



起点に火山島や海山が列を成しています。2003年にハワイのホットスポットが約8000万年～5000万年前に南に大きく移動した証拠が示され、それまでホットスポットは静止点とされていた説が怪しくなり、他にも移動の有無を探る研究が始まった、などと背景を説明しました。

ルイビルでのプロジェクトで分かったこととして星氏は①ルイビルのホットスポットは約7000万年前から緯度がほとんど変わっていない②ハワイのホットスポット（北太平洋）と異なり、ルイビル（南太平洋）は個別に振る舞うことが初めて明らかになった③経度方向の動きがないと仮定すると古地磁気研究上、約7000万年前からの太平洋プレート運動方向を大きく見直す必要がある—などと画期的な研究成果を紹介し、

「地球の営みを探るためには、今後も調査研究の継続が必要」と話しました。

地球内部マントルの対流や温度分布やプレート動きをわかりやすく説明。講演後、参加者からは「日本はいなくなる?」「プレートを動かすエネルギー源は」「マントルの物体は」「マントルが対流していればホットスポットが動くのは当然では」など質問が相次ぎ、星氏は「日本列島に少しずつオーストラリアが近づき、1億5000万年後にはくしゃくしゃになると推測される。プレートは熱によって動く。マントルはすべて岩石。岩の中に岩が沈み込むのは高温の中で圧力がかかるから。ホットスポットの解析は、まだギリギリの判断が必要」などと明快に答え、最後に大きな拍手が贈られた。



## お知らせ・報告・投稿

### ブラジル・サンパウロ大学と国際交流協定締結(報告)

南米で初めて、そして本学にとっては23番目となるブラジル・サンパウロ州立サンパウロ大学との国際交流協定の調印を、当大学のジョアン・グランヂノ・ロダス学長、松田正久学長列席のもと、本学からは二井紀美子准教授、宮川が出席して1月14日(月)に行いました。



サンパウロ大学は、1934年に設立され、南米諸国の高等教育機関の中で、教育研究について最高に位置づけられ、国際的な評価の高い大学です。7つのキャンパスに42の教育研究機関を有し、学部・大学院生を含めて約9万人が在籍しています。教職員数は、約5900人です。また、6つの先端研究所、4つの博物館、大学病院、動物病院、スポーツ施設等があり、公開プログラムを通じた地域貢献にも定評があります。7つのキャンパスの総面積は、7631万㎡で、本学総面積63万㎡の約120倍です。正門を入ると、信号機やバス停が数多く有り、そ



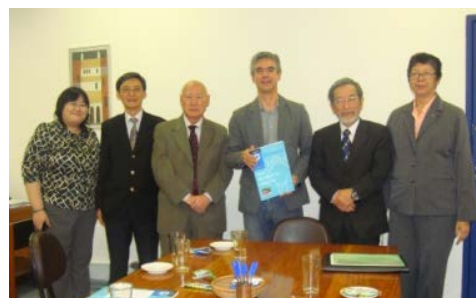
の広さに圧倒されました。

国際交流協定の締結方法には、大学間、学部間、学科間等がありますが、上記のように両大学の規模は異なるものの、今回は南米最初の大学間交流協定の締結を行いました。



「(地理的には)遠くても(人的には)近い国」ということを実感させていただきました。今後、両大学を通じた交流が盛んになり、さらに発展し充実していくことを期待しています。

(国際交流センター長 宮川秀俊)





## ブラジル愛知県人会のサポートに感謝—サンパウロ訪問(報告)

今回の愛知教育大学とサンパウロ大学との協定書づくりは、とても大変でした。日本とブラジルは 12 時間の時差があり、電話一本かけるにも苦労しましたし、また暦（祝日や長期休暇）も異なるためです。そんな時、本学とサンパウロ大学の間で立っていろいろと橋渡しをしてくださったのが、ブラジル愛知県人会副会長で日系 2 世の豊田瑠美氏でした。豊田氏には、協定校探しの段階から大変お世話になりました。また、日本語・ポルトガル語・英語の 3 言語で作られた協定書の第三者確認も、県人会会長の小松ジェニ清香氏がしてくださいました。ここに改めて深く感謝の意を表します。

さて、今回の訪問の目的は、もちろんサンパウロ大学との協定調印式への参加でありましたが、県人会の方々のご協力により、多くの方々と出会うことができました。在サンパウロ日本国総領事の福嶋教輝氏との懇談では、ブラジルの日系社会の大きさとその影響について、さまざまな角度からお話を伺いました。手巻き寿司専門店（テマケリア）をはじめとする日本食がブームになっていたり、現在 200 社を超える日系企業がブラジルに進出しているなど、日本とブラジルの関係が近くなっていることが十分感じられました。



そのほかにも、サンパウロ州国際課課長のロドリゴ・タヴァレス氏とは、サンパウロ州の州立学校で行われている日本語教育をめぐる、生徒の日本語研修や教員養成、インターンシップ等について、意見を交わしました。さらに、サンパウロ市議員と州議員を合わせて 30 年務めている日系のジョージ・ハト議員を訪問したり、サンパウロ新聞とニッケイ新聞の 2 つの現地邦字新聞社を訪ね、日系社会の現状等についてお話を伺いました。

また、ブラジル愛知県人会の会館も訪問しました。もともとは映画館だった建物を改修しているもので、講堂の広さは 47 都道府県の県人会のなかでも一番だそうです。さらに愛知県人会の皆さんが私たちのためにブラジル風バーベキューパーティーを開いてくれました。リラックスした雰囲気なかで、松田学長から、小松会長、豊田副会長宛てに今回の協定に関するご協力に対して、感謝状を贈りました。



ブラジル愛知県人会の小松会長からは、本学がブラジルからの県費留学生を受入れていることへの感謝が伝えられました。また県人会の皆さんが、本学との交流を心から喜んでくださいました。本学においても、今後サンパウロ大学との交流を推進する上で、愛知県人会の存在は心強いものであり、パートナーとしてこれからもよい関係を築いていきたいと思えます。



写真は上から、福嶋総領事（左から 2 人目）と、ロドリゴ・タヴァレス氏と、ブラジル愛知県人会の会館の前で、愛知県人会のみなさんと。

(外国語教育講座 二井紀美子)

## 催しもの案内

### ◆招へい教職員による講演会（第 4 回）

2 月 1 日（金）17：00～19：00

本部棟 3 階 第五会議室

講師・題目：李栄晩 (Lee Youngman) 氏 (韓国・晋州教育大学校教授)  
「教師のバーンアウト (燃え尽き) に関する研究動向」  
王彤 (Wang Tong) 氏 (中国・南京師範大学講師)  
「中国における日本語教育—南京師範大学を例として—」  
言語：日本語  
問い合わせ：国際交流センター TEL 0566・26・2179

◆公開シンポジウム「いま、『いじめ』問題を考える～愛知教育大学からのメッセージ～」

2月2日(土) 13:00～16:30 入場無料、事前予約不要  
名古屋商工会議所ビル3階 第5会議室  
対象：教育関係者、一般  
内容：あいさつ・松田正久学長

第1部は基調講演。講師は多田元氏(弁護士・南山大学法科大学院講師)。テーマは「いじめ問題と向き合う～子どもの視点から～」。

第2部はパネルディスカッション。パネラー・小関俊祐氏(学校教育講座助教 心理臨床) 川北稔氏(教職大学院准教授 社会学) 萬屋育子氏(教職大学院特任教授 児童福祉) 松原信継氏(学校教育講座准教授 教育法)。

コーディネーター・折出健二氏(副学長)

問い合わせ：教育創造機構運営課 TEL 0566・26・2708

◆ヨウジンゴヨウー1本1本のつまようじが感動のアート作品にー

2月2日(土)～11日(月) 10:00～17:00  
刈谷駅前商店街ギャラリー「スペースAqua」  
卒業生・葉山亮三氏の個展。刈谷駅前商店街振興組合主催。  
問い合わせ：澤田さん TEL 0566・21・1109

◆ガラス作品展

2月4日(月)～8日(金) 入場無料、学外者の入館も可  
附属図書館アイ♥スペース  
美術教育講座主催で、学生・教員のガラス作品を展示。

◆講演会「公務員という仕事を知っていますか」

2月6日(水) 14:00  
第二共通棟 411 教室  
講師：刈谷市長 竹中良則氏  
演題：「私の考える公務員」  
問い合わせ：キャリア支援課 TEL 0566・26・2182

## 編集後記

生協の食堂で「しょくまるカレー」を試食。刈谷市のコンテストで上位入賞したカレーを参考に、生協で何度か試作をただけあって、美味しいカレーに仕上がっていました。本学では「しょくまるファイブ」で食育を展開していますが、カレーが登場したことで、理論だけでなく、「実践」もできることとなります。いつでも、だれでも、手軽に食べられるようにと、レトルトパックカレーという構想が膨らみました。学外の皆さんにもぜひ食べていただき、健康のために栄養バランスを考える機会にするためにも、商品開発を期待したいと思います。(K)

## 投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール：[kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp](mailto:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp) 編集責任者：総務担当理事 折出 健二